

理想へのあくなき挑戦!

ASANO KATSUHIKO

東京都議会議員 都議会ニュース

あさの克彦



あさの克彦 ホームページ

連絡先 TEL:03(5848)6918 FAX:03(5848)6919

info@asano-k.net

都議会 (不規則発言) ヤジ発言 について

六月十八日に行われた都議会本会議において、一般質問中の女性議員に対しての不規則発言が問題になっていました。あさの克彦事務所にも毎日多くの方よりメールやFAXが届いております。お一人ずつ直接お答えさせて頂く事が難しいので、本レポートにて、頂いたご質問と私の回答を掲載させて頂きます。

Q、ヤジの声は聞こえましたか？ また、聞こえた内容は？

A、「結婚」と言う言葉だけ聞こえました。登壇中の議員の発言が止まったので、周囲の議員に何があったのか聞き、ヤジの内容を知りました。

Q、「産めないのか」と言うヤジを発言した議員は誰ですか？

A、噂レベルのものは聞いていますが、あくまで憶測の域を出ないので、名前は挙げられません。

Q、今回のヤジについて、どの様にお考えですか？

A、公人である議員が、たとえ軽口であっても今回のような発言をしてしまった事に問題がある上に、すぐに名乗り出ず隠れしようとする体制は決して褒められる物ではありません。

あさの克彦 意見

今回の件の本質的な問題は、この手のことに対する意識の低さにあると考えます。あの発言があった時に、すぐに本会議を休憩にして議会運営委員会を開き対応を協議すべきでした。これは協議の理事を出している会派共通の責任だと考えます。時間が経てば経つほど、対応の幅は限られてきます。また、議員辞職についてですが、ご本人が判断し、然るべく対応すべきだと

Q、議会においてヤジは必要でしょうか？

A、私は基本的にはヤジに反対です。一期目の公約で、基本的にヤジらない、ヤジに反応しないと書いておりました。

つい感情的になってしまい、ヤジに反応してしまった事はありますが、最近では冷静に対処するよう心掛け、不必要に反応する事は殆ど無くなりました。

議会における野次には慣習や歴史があるのかもしれませんが、時代にそぐわなくなっているのではないのでしょうか。

発言が聞こえなくなる様なヤジは控えるべきだと思います。会派内でも、これを機にヤジをやめる事も提案しました。そろそろ議員も、一般社会の常識に戻って来る時がきているのではないのでしょうか。

本質的な問題は意識の低さ

考えます。そして、その行動に対して有権者が投票行動で判断を下すべきだと考えております。もちろん、辞職勧告を出すべき時もあるでしょうが、一つの判断が未来に向かって線を引くことを忘れてはならないと思います。どの程度が辞職でどこまでが陳謝で、どこまでが戒告なのか、その基準を作るならまだしも、ただ辞職を求めては、基準が曖昧のまま進むことになると思います。私なら潔く辞職するとは思いますが。



プロフィール

略歴

昭和49年9月 北海道札幌市生まれ
平成10年3月 北海道大学工学部卒
平成12年4月 大学院中退後、IT企業入社
平成13年7月 現埼玉県知事 上田さよし 秘書(後に事務所長)
平成21年7月 東京都議会議員 初当選
平成25年6月 東京都議会議員 2期目当選

前職

都議会民主党 総務会副会長
財政委員会 副委員長
公営企業委員会 理事
東京都青少年健全育成審議会 委員
オリンピック・パラリンピック 招致特別委員会 副委員長

現職

都議会民主党 政策調査会副会長
文教委員会 委員
都市計画審議会 委員
予算特別委員会 委員



あさの克彦事務所

練馬区春日町4-18-8 第3小野ビル1F-B
TEL. 03-5848-6918 FAX. 03-5848-6919



facebook.com/katsuhiko.asano.1



@katsuhikoasano



毎週月曜 20時~

『居酒屋空間 運送屋チャンネル』出演中!

居酒屋空間 ニコ生

検索

文教委員会 質疑

都立高校入試で採点ミス

平成26年4月、都立荻窪高等学校において、ある教諭が新入生の学力を把握するために、入学試験の答案を確認したところ、8名の答案に採点の誤りがあったことが判明しました。

このことを受けて、全ての都立高等学校で再度答案を点検した結果、複数の学校で採点の誤りがあったことが判明しました。

この件に関して文教委員会でを行った質問をご報告します。

●採点業務における問題点

再三にわたって言われており、教育長も自らおっしゃっていますが、入試における採点ミスはあってはならない。とは言え、人がミスするのは世の常であり、絶対や完璧という事はない。だからこそ、検証と再発防止策の精度を高め、ミスが発生したとしても取り戻せる所で発見できるようにしておく事が大切です。

聴き取り調査によると、発生原因に意識の問題がある事はわかるが、採点業務の進め方にも課題があった事がわかる。**意識という言葉で片付ける事は簡単だがそれでは改善にはつながらない。**毎年行われる採点業務で、何の問題も感じなかったのか。感じたけれど、上司に伝わらなかったのか、上司が受け付けなかったのか。あるいは、教育委員会に伝わらなかったのか、教育委員会が聞く耳を持たなかったのか。どこかに問題があったはずである。

一 答弁一

都教育委員会は、前年度の入試が適正に実施されたかを検証し、当該年度に反映させるため、入学者選抜検討委員会を毎年設置しております。しかし、採点業務に関しましては、複数の人間により複数回の点検を実施しており、誤りは起こるはずがないという思い込みから、委員会の議題にも上らず、学校からの提言もありませんでした。この点については深く反省すべきと考えております。

●外部委託の検討

今回、複数回のチェックがなされたが、最終チェックの段階でも新たなミスが発見された。今後、民間への委託や外部チェックも視野に入れていくべきだが、これまで適正に実施されているという認識でいたのであれば、その考えに至るのは難しいでしょう。この事については我々議会人も反省をしなければいけない。会議録を調べた結果、採点業務に対して、これまで文教委員会や本会議での提言が出ていませんでした。議会側も採点業務に関して、適正に行われているという思い込みがあったことは反省しなければいけないと思います。そういった中で、信頼関係をなくせば仕事を取る事が出来ない様な、採点を業務としている民間企業に学ぶことは多いのではないのでしょうか。今後、民間企業からのヒアリングを行うべきではないのでしょうか。

一 答弁一

今後、そういった民間企業の工夫や採点システムを調査し、関係者の意見を聴取する場を用意してまいります。



●答案返却制度

採点する側の意識をどんなに高くしても当事者の受検生ほどにはならない。最終チェックは受検生ができれば、最も公正な形だと思ふ。具体的には、**試験結果に対して、希望すれば自己答案のコピーを確認できる制度があっても良い。**これまで、そのような制度は検討されていないのか。また、現実的に可能かどうか。

一 答弁一

これまで、受検生の希望があれば個人情報の保護条例に基づく手続きを受け、開示を行ってまいりました。今後、答案の返却を制度化することの実現性・実効性について検討する予定です。

●教員の威厳確保

このようなミスが発覚した場合、再発防止のために制度上の改善を充分検討する事は大切だが、一方で、教師が生徒に対して卑屈になったり、あるいは生徒が教師を見下したりしては教育機関としての効果が下がる。今回、原因究明も必要だが、未来に向け、教師の権威を失墜させないようにする事も必要。今後、**都立高校の教員の威厳を確保するよう取り組んでいくべき。**

一 答弁一

失われた信頼を回復するためには、一人一人の教員が今回の事態を真摯に受け止めることが必要です。都教育委員会は学校と一体となりこの問題に取り組み、来春以降の入試を適正に実施することで、教員への信頼を取り戻せるようにしてまいります。